

課題別研修

－不登校防止パッケージ H29事例－

○以下の語は（ ）内を意味する
S S W（スクールソーシャルワーカー）

不登校事例（小学校）

1 A男（5年生）は、小柄でやせ気味、日頃から学用品や集金、保護者からの提出書類などの忘れ物
2 が多く、あまり洗濯されていないと思われるカットシャツや靴下を身に付けている。昨年度の担任
3 からは「欠席17、遅刻150、早退0。ほとんど朝食を取っていない様子。家庭生活が不安。幼い弟
4 の面倒をよく見ている。」と引き継ぎがあった。

5 4月27日現在、欠席7、遅刻8、早退4日と安定した登校になっておらず、授業はほぼ理解できて
6 いない様子で、終始居眠りをしている姿が見られている。担任のB教諭は、年度当初からA男が気
7 になっており、何気ない話をきっかけに関係づくりをしながら教育相談を行っているが、現在までのと
8 ころ、これといった背景がつかめないままにいる。この日は、年度始めの家庭訪問の日のため、B教
9 諭は家庭でのA男の様子を聞き取り、児童理解を深めたいと考えていた。

10 A男の自宅に到着したB教諭は、呼び鈴を鳴らして玄関前で待っていると、しばらくして大きな声
11 で来客を拒む声が聞こえ、扉が開いた。A男の母親はおよそ来客を迎える服装ではなく、開いた扉か
12 らは足の踏み場もないほどのゴミや衣類に覆われた内部を伺うことができた。母親のそばに上半身裸
13 で幼稚園の短パンをはいて、指をくわえた涙目の弟が見えた。

14 B教諭は簡単に自己紹介を済ませ、家庭訪問で来宅したことの断りをしたところ、母親は玄関から
15 外に出てきて扉を閉め、次のようなことをB教諭に話した。

16 「家庭訪問であることは知らなかった。学校からの案内文書も見していない。」「突然来られては迷惑
17 である。」「A男は弟の面倒をよく見てくれている。」「勉強のことは本人に任せている。」「朝は食べ
18 なければ自分で用意するよう躾けている。」「洗濯も自分でするのが家庭の方針である。」

19 B教諭は家庭生活の様子に強い違和感を覚えたが、母親との関係が悪くならないよう、指導の方針を
20 伝え、今後の協力を依頼して帰校した。

21 次の日からA男は5日間欠席を続けた。B教諭は家庭訪問時の様子からA男のことが気になり、欠
22 席初日から家庭連絡をしたり、家庭訪問をしたりしたが、明らかに居留守を使われ、連絡を取るこ
23 ができる状態だった。B教諭は、A男の欠席初日から管理職をはじめ、他の教員に相談をしていた
24 が、具体的な解決策を見い出せずにいた。

25 A男のことを気にかけていた主幹教諭が、B教諭に「ネグレクトなどの虐待が背景にある長期欠席
26 の可能性はないか。」と話したところ、B教諭はこれまでの違和感を総合的に整理して考え、その可
27 能性が高いと感じるようになった。

28 二人は、これまでの事実を整理して仮説を立て、生徒指導担当のC教諭に相談をした。C教諭は緊
29 急対応が必要な深刻な事態になりかねないと判断し、生徒指導委員会においてケース会議を開くこと
30 を決め、即日夕方に会議を開催した。

31 ケース会議において、

- 32 ・B教諭はA男へのアプローチを継続する。主幹教諭と養護教諭がフォローする。
- 33 ・教務主任と教頭で両親へのアプローチを始める。
- 34 ・C教諭は幼稚園との情報連携にあたる。また、管理職とともに福祉部局と連携を図る。
- 35 ・校長は教育委員会へ報告し、児童相談所との連携の可能性を探る。S S Wの派遣を依頼する。
- 36 など、チーム支援の体制を整え、早急に事態を把握し、対応することになった。

課題別研修

－不登校防止パッケージ H29事例－

○以下の語は（ ）内を意味する
S S W（スクールソーシャルワーカー）

不登校事例（中学校）

1 A男（2年生）は、小柄でやせ気味、日頃から学用品や集金、保護者からの提出書類などの忘れ物
2 が多く、あまり洗濯されていないと思われるカットシャツや靴下を身に付けている。小学校からは
3 「6年生で欠席17、遅刻150、早退0。ほとんど朝食を取っていない様子。家庭生活が不安。幼い
4 弟の面倒をよく見ている。」と引き継ぎがあり、中学校1年生では「欠席25、遅刻106、早退72。
5 2学期以降、遅刻早退が始まる。両親と連絡取りにくい。」と記録がされている。

6 4月27日現在、欠席7、遅刻8、早退4日（遅刻8日のうち4日は同日に早退している。）と安定した登校に
7 なっておらず、授業はほぼ理解できていない様子で、終始居眠りをしている姿が見られている。担任
8 のB教諭は、年度当初からA男が気になっており、何気ない話をきっかけに関係づくりをしながら教
9 育相談を行っているが、現在までのところ、これといった背景がつかめないままだ。この日は、
10 年度始めの家庭訪問の日のため、B教諭は家庭でのA男の様子を聞き取り、生徒理解を深めたいと考
11 えていた。

12 A男の自宅に到着したB教諭は、呼び鈴を鳴らして玄関前で待っていると、しばらくして大きな声
13 で来客を拒む声が聞こえ、扉が開いた。A男の母親はおよそ来客を迎える服装ではなく、開いた扉か
14 らは足の踏み場もないほどのゴミや衣類に覆われた内部を伺うことができた。母親のそばに上半身裸
15 で幼稚園の短パンをはいて、指をくわえた涙目の弟が見えた。

16 B教諭は簡単に自己紹介を済ませ、家庭訪問で来宅したことの断りをしたところ、母親は玄関から
17 外に出てきて扉を閉め、次のようなことをB教諭に話した。

18 「家庭訪問であることは知らなかった。学校からの案内文書も見していない。」「突然来られては迷惑
19 である。」「A男は弟の面倒をよく見てくれている。」「勉強のことは本人に任せている。」「朝は食べ
20 たければ自分で用意するよう躡けている。」「洗濯も自分でするのが家庭の方針である。」

21 B教諭は家庭生活の様子に強い違和感を覚えたが、母親との関係が悪くならないよう、指導の方針を
22 伝え、今後の協力を依頼して帰校した。

23 次の日からA男は5日間欠席を続けた。B教諭は家庭訪問時の様子からA男のことが気になり、欠
24 席初日から家庭連絡をしたり、家庭訪問をしたりしたが、明らかに居留守を使われ、連絡を取ること
25 ができない状態だった。B教諭は、A男の欠席初日から管理職をはじめ、他の教員に相談をしていた
26 が、具体的な解決策を見い出せずにいた。

27 A男のことを気にかけていた2年団の生徒指導担当が、B教諭に「ネグレクトなどの虐待が背景に
28 ある長期欠席の可能性はないか。」と話したところ、B教諭はこれまでの違和感を総合的に整理して
29 考え、その可能性が高いと感じるようになった。

30 二人は、これまでの事実を整理して仮説を立て、生徒指導主事のC教諭に相談をした。C教諭は緊
31 急対応が必要な深刻な事態になりかねないと判断し、生徒指導委員会においてケース会議を開くこと
32 を決め、即日夕方に会議を開催した。

33 ケース会議において、

- 34 ・B教諭はA男へのアプローチを継続する。副担任と養護教諭がフォローする。
35 ・学年主任と教頭で両親へのアプローチを始める。
36 ・生徒指導主事は幼稚園との情報連携にあたる。また、管理職とともに福祉部局と連携を図る。
37 ・校長は教育委員会へ報告し、児童相談所との連携の可能性を探る。S S Wの派遣を依頼する。
38 など、チーム支援の体制を整え、早急に事態を把握し、対応することになった。

課題別研修

ー不登校防止パッケージ H29事例ー

○以下の語は（ ）内を意味する
S S W（スクールソーシャルワーカー）

不登校事例（高等学校）

1 普通科に通っているA男（2年生）は小柄でやせ気味、日頃から学用品や集金、保護者からの提出
2 書類などの忘れ物が多く、あまり洗濯されていないと思われるカットシャツや靴下を身に付けてい
3 る。中学校からは「3年生で欠席17、遅刻150、早退0。ほぼ朝食を取っていない。家庭生活が不
4 安。幼い弟の面倒をよく見ている。」と引き継ぎがあり、高校1年生では「欠席15、遅刻60、早退
5 35。2学期以降、遅刻早退が始まる。両親と連絡取れない。」と記録が残っている。

6 4月27日現在、欠席7、遅刻7、早退4日（遅刻7日のうち4日は同日に早退している。）と安定した登校
7 になっておらず、授業中は、終始居眠りをしている様子が見られている。担任のB教諭は、年度当初
8 からA男が気になっており、何気ない話をきっかけに関係づくりをしながら教育相談を行っているが、
9 現在までのところ、これといった背景がつかめないままである。この日は、1年時に欠席の多かった
10 生徒の家庭訪問日になっているため、B教諭は家庭でのA男の様子を聞き取り、生徒理解を深めたい
11 と考えていた。

12 A男の自宅に到着したB教諭は、呼び鈴を鳴らして玄関前で待っていると、しばらくして大きな声
13 で来客を拒む声が聞こえ、扉が開いた。A男の母親はおよそ来客を迎える服装ではなく、開いた扉か
14 らは足の踏み場もないほどのゴミや衣類に覆われた内部を伺うことができた。母親のそばに上半身裸
15 で幼稚園の短パンをはいて、指をくわえた涙目の弟が見えた。

16 B教諭は簡単に自己紹介を済ませ、家庭訪問の主旨を説明したところ、母親は玄関から外に出てき
17 て扉を閉め、次のようなことをB教諭に話した。

18 「家庭訪問であることは知らなかった。学校からの案内文書も見っていない。」「対象者限定の家庭訪
19 問は理不尽で、突然来られては迷惑である。」「A男は弟の面倒をよく見てくれている。」「勉強のこ
20 とは本人に任せている。」「朝は食べたければ自分で用意するよう躡けている。」「洗濯も自分です
21 るのが家庭の方針である。」

22 B教諭は家庭生活の様子に強い違和感を覚えたが、母親との関係が悪くならないよう、指導の方針を
23 伝え、今後の協力を依頼して帰校した。

24 次の日からA男は5日間欠席を続けた。B教諭は家庭訪問時の様子からA男のことが気になり、欠
25 席初日から家庭連絡をしたり、家庭訪問をしたりしたが、明らかに居留守を使われ、連絡を取ること
26 ができない状態だった。B教諭は、A男の欠席初日から学年主任をはじめ、他の教員に相談をしてい
27 たが、具体的な解決策を見い出せずにいた。

28 A男のことを気にかけていた学年主任が、B教諭に「ネグレクトなどの虐待が背景にある長期欠席
29 の可能性はないか。」と話したところ、B教諭はこれまでの違和感を総合的に整理して考え、その可
30 能性が高いと感じるようになった。

31 二人は、これまでの事実を整理して仮説を立て、生徒課長のC教諭に相談をした。C教諭は緊急対
32 応が必要な深刻な事態になりかねないと判断し、生徒課会議においてケース会議を開くことを決め、
33 即日夕方に会議を開催した。

34 ケース会議において、

- 35 ・B教諭はA男へのアプローチを継続する。副担任と養護教諭がフォローする。
- 36 ・学年主任とC教諭で両親へのアプローチを始める。
- 37 ・C教諭は幼稚園との情報連携にあたる。また、管理職とともに福祉部局と連携を図る。
- 38 ・校長は県教育委員会へ報告し、児童相談所との連携の可能性を探る。スクールソーシャルワーカー
39 の派遣を依頼する。

40 など、チーム支援の体制を整え、早急に事態を把握し、対応することになった。